

年

---

間質性肺炎合併肺癌の術後間質性肺炎急性増悪におけるイメージングバイオマーカーの確立

---

間質性肺炎合併肺癌では術後の間質性肺炎の急性増悪は重篤な合併症です。術前 CT 画像における増悪リスクおよび重症度予測を目的としています。

---

術前 CT 画像における間質性肺炎の所見で術後間質性肺炎の増悪リスクおよび重症度を予測できれば、術前 CT 画像をイメージングバイオマーカーとして用いることができると考えられます。

---

2010 年 1 月 1 日から 2016 年 9 月 30 日の間に間質性肺炎合併肺癌と診断され、肺癌切除術を受け、肺癌切除術前 30 日以内に高分解能の CT による画像診断を受けた患者さんのなかから該当患者さんを選びます。手術の後に間質性肺炎が悪化した患者さん 1 例に対して間質性肺炎が悪化しなかった患者さん 2 例の登録、合計 9 名の登録を行います。撮影された CT 画像および治療内容などのデータを匿名化したあとに名古屋市立大学に送られ、間質性肺炎の悪化を来す原因について解析されます。名古屋市立大学の情報管理責任者については下記のとおりです。

所属 名古屋市立大学大学院医学研究科放射線医学分野 小澤良之

---

受

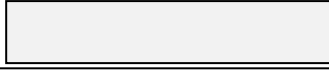
---

研究実施に係る情報を取扱う際は、個人情報とは無関係の研究番号を付して対応表で匿名化し、研究対象者の秘密保護に十分配慮しています。

---

該当の患者さんに直接の利益は生じませんが、研究成果により将来の医療の進歩に貢献できる可能性があります。バイエル株式会社からの資金提供を受けて行われる研究であり、利益相反については帝京大学板橋キャンパス利益相反管理委員会の審査を受けてから施行されます。

下



医